

「暮らしの安全モデル校指定事業」事業実施報告書

モデル校指定校名 : 岐阜市立長良西小学校

1. 事業の実施期間 指定を受けた日から平成30年3月15日

2. 学校の概要

学校名	岐阜市立長良西小学校
学級数	通常学級：21学級、特別支援学級：2学級
児童生徒数	全児童数：703人（平成29年4月1日現在）
URL	http://cms.gifu-gif.ed.jp/nagaranishi-e/

3. 調査研究のテーマ

内容「D身近な消費生活と環境」において、衣食住などの他の内容との関連を図り、身近な消費生活や環境をよりよくしようと工夫する能力を育成するための指導と評価の研究開発。

本校は、「『自ら学ぶ力』を身に付けていく子を目指して」を研究主題に掲げ、教科部制により、11期30年以上の研究を進めている。家庭科における「自ら学ぶ力」を、「自分の生活を見つめ、課題を見付け、学んだ知識及び技能を生かしてよりよい生活をつくり出していく力」と捉え、児童が実践的・体験的な活動を通して、自分の家庭生活とつなげて考えることを大切にしながら指導を積み重ねてきた。

しかし、児童の実態に目を向けてみると、学習を通して身に付けた知識や技能が家庭において十分に生かされているとは言えない状況がある。特に、物があふれる生活の中において児童の物に対する意識が低く、まだ使えるのに新しい物を購入したり、情報に左右され、不要な物まで購入したりするなどの姿が見られる。そのため、物を大切にしたり、金銭の計画的な使い方を考えたりすることを十分に身に付ける必要がある。

そこで、内容「D身近な消費生活と環境」と、衣食住など他の内容との関連を図って題材を構成することにより、物や金銭の使い方の視点から生活を見つめ、物や金銭を有効に使うことの重要性に気付く、計画的な購入や使い方を考え、身近な消費生活や環境をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育みたいと考え、本研究主題を設定した。

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容・実施日程

研究内容

①内容「D身近な消費生活と環境」の題材指導構想の工夫

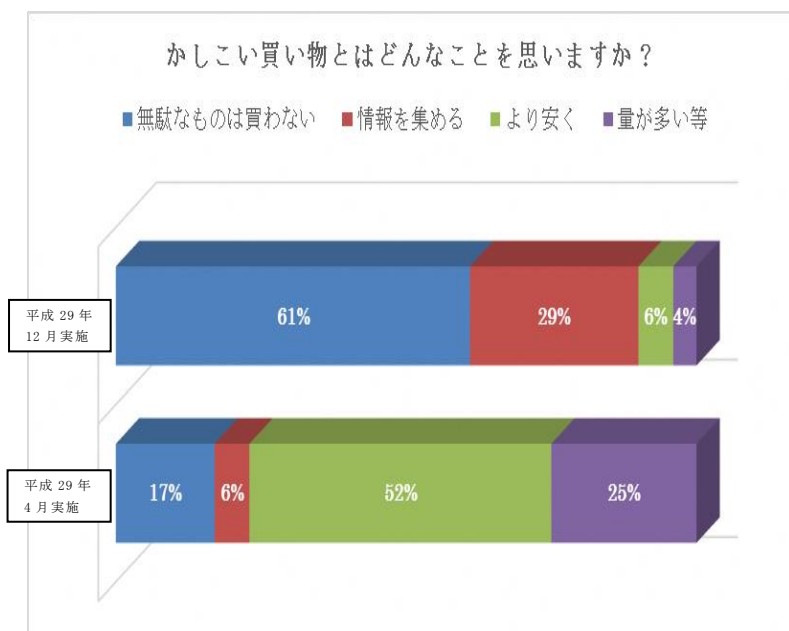
- ・内容「D身近な消費生活と環境」に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、家庭実践へとつなげる題材構成表の工夫
- ・身近な消費生活と環境とのつながりを実感し、家庭実践へとつなげる「生活見つめ」と「家庭実践」を位置付けた題材指導計画の作成

②学習過程の工夫

- ・家庭生活とのつながりを明確にした基礎的・基本的な知識及び技能の習得とその活用を図る問題解決的な学習過程の工夫
- ・消費生活や環境に関する見方や考え方を広げる「生活のカギ」
- ・「できる・生かす自分」につながる評価の在り方

時 期	内 容	備 考
4 月	・研究の方向性の確認	参加者 10 人 印刷部数 20 部 配布先：石川県の教員 石川県へ出張
5 月	・質問紙による意識調査①の実施と分析	
6 月	・内容「D身近な消費生活と環境」と他の内容との関連を図った題材配列表の立案 ・授業実践①【7月7日（金）】：「朝食をつくってみよう」	
7 月	B(1)(2)(3)D(1) *内容「D身近な消費生活と環境」と他の内容との関連を図った授業実践 *家庭実践への意欲を高める指導の工夫 7月31日（月）長良川学園 長良中・長良西小合同研究部会 実践発表→8月21日（月）金沢市教育委員会主催事業	
8 月	*内容「D身近な消費生活と環境」と他の内容との関連を図った授業実践 *家庭実践への意欲を高める指導の工夫 ・学力調査①（学校独自）の実施と分析 ・授業実践②【11月2日（木）】：中間研究発表会	
9 月	*内容「D身近な消費生活と環境」の授業実践	
11 月	*身近な消費生活や環境に関する思考力・判断力・表現力等を育むため問題 解決的な学習の実践 11月16日（木）、17日（金） 第54回 全国小学校家庭科教育研究会 全国大会 石川大会 石川県小松市立芦城小学校参観 *内容「D身近な消費生活と環境」と他の内容との関連を図った授業参観及び研究会参加	
12 月	・学力調査②（学校独自）の実施と分析	
1 月	・質問紙による意識調査の実施と分析	
2 月	・研究の成果と課題のまとめ、次年度の検討	
3 月	・岐阜県小学校家庭科研究部会への報告、来年度の研究の方向についての検討	

（2）調査研究の成果と課題



< 成果 >

- 授業を通して学んだことを家庭生活に生かせるような場を設定したことで、家庭実践につながった。
- 特に研究内容②にある学習過程を工夫したことでよりよい暮らしを目指して、自分の生活を見つめたり、その中から問題を見つけたりして自分事として考えながら主体的に授業に参加する姿が増えた。
- 追跡調査として、消費に関わるアンケートを題材を学習する前と後に同じ項目で行った。左の円グラフのように、学習前（4月実施）は、より安く買うことがかしこい買い物だと考えていた子が、授業後（12月実施）には、必要かどうか考えたり、品物の情報をしっかり見て比べたりすることを大切にしたいと考える子が増加した。これは、消費の学習を通して学んだことを大切にしていることが実態からも分かり成果だと言える。

< 課題 >

- 中学校との合同教科部会を行ったが、今後もさらに中学校との連携を図っていく。小学校の子供たちが中学校へ行ってからどう成長していくか等を追跡調査等から検証していく。そうすることで、より明確に長い目で見た際の成果や課題がはっきりとしていく。